平成11年6月8日第三種郵便物認可（年4回2・5・8・11月の10日発行）第201号 令和5年5月10日発行

全国曹洞宗青年会

# SOUSEI

2023.5
Vol.201

# 東日本大震災十三回忌

慰霊復興祈願法要　写経奉納

**東日本大震災13回忌を迎えた今号の特集では、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）や各県曹青の慰霊行事を報告します。**

**また特集後半では、東日本大震災に対する全曹青の復興支援活動を振り返ると共に、発災時に第18期会長在任中であった久間泰弘老師にお話を伺いました。**

## 東日本大震災十三回忌 慰霊復興祈願法要

令和5年3月10日、福島県伊達市・成林寺様境内に建立されている納経塔前において、全日本仏教青年会（以下、全日仏青）・全曹青・世界仏教徒青年連盟（以下、WFBY）の共催のもと「東日本大震災十三回忌慰霊復興祈願法要」が執り行われました。この法要は東日本大震災発災以降毎年行っていましたが、コロナ禍により3年前は中止、一昨年と昨年は関係者のみ現地に入り、オンライン開催となっていました。

導師は全曹青・山田俊哉会長、WFBY・村山博雅会長、全日仏青・西郊（にしおか）良貴理事長が務めました。随喜には全国からOBを含めた全曹青会員、全日仏青各加盟団体会員が約80名。WFB世界仏教徒連盟のモンティアン事務総長、WFBYのイタノン事務総長はじめ本部役員の方々等、国や宗派の枠を越え多数ご参加いただきました。また、ZOOMでのオンライン参加やYouTubeライブ配信も行い、現地にお越しいただけない方にも法要の様子をお伝えすることができました。

14時30分に開式となり、山田会長は「この法要はコロナ禍の影響により、中止やオンラインのみの開催を余儀なくされていました。4年ぶりにお集まり

いただいての法要となります。被災地の皆様の苦しみや悲しみが癒えていないということを忘れずに、想いに寄り添って、私たちは活動を続けて参ります」と、挨拶を行いました。

発災時刻の14時46分を迎え、13発の鎮魂の音花火と共に、参加者一同で黙祷を捧げました。山林にこだまする花火の響きが再び静寂へと戻り、法要が開始されました。法要は2部構成となっており、はじめに東日本大震災物故者慰霊法要と納経が行われました。納経された写経は、全曹青の写経プロジェクトに賛同いただき、この1年間で全国からお寄せいただいた2，000枚を超える写経です。納経の際には、全曹青による梅花流詠讃歌の奉詠が行われました。

引き続き復興祈願法要が行われ、西郊全日仏青理事長による表白や法螺貝吹奏、祈祷太鼓や念仏など、超宗派ならではの法要となりました。また、参加者一同で東日本大震災『鎮魂の誓い』を唱和し、慰霊と復興支援への決意を再び誓いました。

法要の最後に、全日本仏教会・尾井貴童事務総長、曹洞宗復興支援室分室主事（成林寺副住職）久間泰弘老師、

左から　村山 WFBY 会長・山田全曹青会長・西郊全日仏青理事長

法螺貝吹奏

さらに主催者を代表し全日仏青・西郊理事長、WFBY・村山会長よりご挨拶がなされました。尾井事務総長は「苦しみ、悲しみの中に降り来たって、救わずにはおられないという、み仏様のおはたらきのもと、我々も引き続き、苦しみに寄り添っていくという活動を続けていきましょう」と、力強いお言葉をいただきました。次にご挨拶いただいた久間老師からは、「様々な想い、様々な形でこの法要にご参集いただきありがとうございます。これからも東北・被災地の復興の道筋を見守っていただきますよう、お願いいたします」と、被災地で活動を続けてこられた想いを語られました。続いて西郊理事長は「この法要を継続する大切さを実感しています。今後も社会状況を注視しつつ積み重ねていきたいと思います」と述べられ、最後に村山会長は「この納経塔は、私達の活動と祈りが続けられてきた象徴となる場所です。この想いを未来に引き継いでいくため、共に祈り続け、共に想いを紡いでいきたいと思います」と、決意を述べられました。

東日本大震災から12年。4年ぶりに全国から多くの方が現地に参集し一堂に会することで、震災慰霊・復興祈願に向かう皆の想いをひとつにすることができました。初参加の会員も多数おられましたが、未来へとその想いをつなげる大切な時間となりました。

文／広報委員　信行一宏

全曹青公式
YouTube
チャンネル
法要動画

# 東日本大震災十三回忌逮夜法要

深堀師　ハンドパン演奏

「東日本大震災十三回忌慰霊復興祈願法要」に続き3月10日19時より、成林寺様の納経塔前において山田俊哉会長が導師となり、「東日本大震災十三回忌逮夜法要」が厳修されました。静寂に包まれた納経塔前では、鎮魂と未来への希望の想いを込めたキャンドルが灯り、祭壇には全国から寄せられた被災地へのメッセージが映し出されました。この法要は『全曹青 YouTube チャンネル』でオンライン配信されました。

法要に先立ち、昨年10月にタイで開催された「WFBY世界仏教徒青年連盟 世界大会」の際に、当会が加盟する全日仏青が活動紹介として制作した動画「Buddhism in the Time of Crisis ～危機の時代の仏教～」を放映しました。こちらは世界の仏教徒に向けて、日本仏教の特色である災害復興支援を始めとした社会参画活動を紹介した動画です。災害や社会的格差、コロナ禍によって社会的・文化的に分断された時代に我々僧侶に何ができ、何を求められているかを再確認いたしました。

逮夜法要では、御霊の鎮魂と被災地復興への願いを込めて読経し、普門品のゆったりとした行道とご詠歌による厳かな法要となりました。法要後には、曹洞宗山形県第三宗務所青年会会員の深堀泰寛師による、ハンドパンの追悼演奏が行われました。被災地から日本全国や世界へ向けて、美しく優しい音色が夜空に響きわたりました。深堀師は「震災で亡くなられた方の慰霊と鎮魂、各被災地の早期復興を願い演奏させていただきました。未だ震災の悲しみは癒えません。しかし今を生きる一人一人がこの災害を忘れず、被災地に対して何ができるのかを考えるのが大切です。今後も様々な災害が起きたとしても、復興に向けて手を取り合い支え合っていける未来を願います」と述べられました。

東日本大震災や多発する国内外での自然災害の被災地へ想いを寄せ、亡くなられた方の慰霊と被災地の復興を静かに祈る時間となりました。

文／広報委員　菅原貴俊

全曹青公式
YouTube
チャンネル
法要動画

会場に映し出される全国からのメッセージ

# 活動の灯　法要

3月11日、宮城県・自照院様、岩手県・龍泉院様のそれぞれの「活動の灯」の前で、慰霊法要を行いました。東日本大震災当時、海辺から離れた2つの寺院は津波がなく比較的被害が少なかったため、全曹青の被災地での活動拠点となっていました。そこで慰霊の想いと復興支援の継続を誓った石碑として、この「活動の灯」が建立されました。

自照院様では田ノ口太悟副会長が導師を務め、「東日本大震災一周忌の法要参加が、私の全曹青への出向のきっかけとなって今に至ります。この『活動の灯』が全曹青の復興支援活動の象徴となり、これからも被災地に寄り添うという誓いの証となるような活動を継続したいと思います」と挨拶しました。

龍泉寺様では森井宗淳副会長が導師を務め、多くの方が参列されました。龍泉寺様の御住職である石ヶ森桂山老師は「今年の慰霊法要には、あえて皆さんへの案内をしませんでした。しかしこれほど多くの方が慰霊法要に参加してくれて、当時も今も皆の想いは変わらないということを実感します」と語られました。

12年の月日がたった今、これからも被災地の皆様の心に寄り添い続けるという誓いを新たにする法要となりました。

文／広報委員　伊村千尋
信行一宏

岩手県・龍泉寺様

宮城県・自照院様

# 全日本仏教青年会 東日本大震災十三回忌慰霊行脚

3月9日、全日仏青が主催となり、福島県相馬市において東日本大震災十三回忌慰霊行脚が行われました。千日回峰行者である光永圓道大阿闍梨（天台宗覚性律庵住職）を先達に全日仏青会員約60人が参集し、鎮魂と復興を願い約10キロを行脚いたしました。

当日はまず摂取院（真言宗豊山派）の本堂内で法楽の後、青年僧侶一人一人が被災地の復興を願い、行脚を開始しました。途中、被害が特に甚大であった磯部地区にある相馬市東日本大震災慰霊碑で法楽を勤め、同地区の妙楽寺（天台宗）に到着しました。

先達　光永圓道大阿闍梨

2万人を超える犠牲者、行方不明者を出した東日本大震災。ここ相馬市でも、４００人以上の方々が帰らぬ人となりました。当時の凄惨な現実を目の当たりにした方々の悲しみや深く負った心の傷は、13回忌を迎えた今もなお残り続けています。今自分の行脚しているこの大地が、12年前は跡形もなく津波にのまれた場所なのだと心に刻みつつ、また私も地元岩手県で被災した身として早期復興を願いました。そして被災者の気持ちが少しでも癒えるようにと祈りを込めて、一歩一歩地面を踏みしめ歩きました。

文／国際委員　三浦拓生

全曹青役員　行脚の様子

# 曹洞宗福島県青年会

曹洞宗福島県青年会（以下、曹福青）では、昨年9月5日から本年3月10日まで全13回にわたり、いわき市から新地町までの海岸線約120㎞を慰霊行脚する事業「絆の道」を行ってまいりました。実行委員長の楠恭信師は「法要のほかに、もっと被災地に寄り添えることはないかと思い企画しました。慰霊行脚を通じて、被災地の現在の様子や人々の想いなどを伺い、実際に行ってみないと分からないことを肌で感じました。僧侶にできることはまだまだあると思います。複雑な想いを重ねてこられた方がたくさんいらっしゃるので、その想いに寄り添える僧侶でありたいと思います」とお話いただきました。

3月11日には相馬市の「ほこだて仏光堂　一休館相馬」において、発災時刻の14時46分より曹福青・佐藤泰典会長導師のもと、一般参列者をお招きして、東日本大震災十三回忌慰霊法要が勤められました。佐藤会長は「年回忌法要は今までも行ってきましたが、被害の大きかった相馬の地で法要を行うことはひとつの悲願でした。参列者の方に救われたような気がしたという言葉をいただき、やってよかったと思いました。しかしもちろんこれで終わりではなく、悲しみがなくなるわけではありません。引き続き、できることを行じていきたいと思います」と、決意を新たにされました。

法要の様子は、曹福青の公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。是非想いをともにしていただければと存じます。

取材／広報委員　菅原貴俊

「絆の道」行脚の様子　© 磯谷英二

ほこだて仏光堂　一休館相馬

# 宮城県曹洞宗青年会

宮城県曹洞宗青年会（以下、宮曹青）では、令和5年3月11日、宮城県石巻市海藏庵様から石巻市震災遺構大川小学校まで約5ｋｍの托鉢を行いました。その後14時30分より、大川小学校で遺族会様や大川地区を中心としたご寺院様と共に、諷経を勤めました。読経中には、沢山の参列者が献花台に花を手向けられました。

東日本大震災の津波により、この大川小学校では児童・教職員84人、大川地区全体では418人の方々がお亡くなりになりました。宮曹青では一昨年に大川小の語り部さんをお招きし、発災からこれまでの活動やこれから取り組むべきこと等のお話を頂きました。十三回忌を迎えましたが、この場所で起きたことを決して忘れることなく、これからも供養を勤めてまいりたいと思います。

文／広報副委員長
（宮城県曹洞宗青年会所属）　宮本貴心

宮城県石巻市　震災遺構大川小学校

# 岩手県曹洞宗青年会

あの東日本大震災から、今年で早くも12年が経ちました。岩手県曹洞宗青年会では、3月10日に県内沿岸の釜石市・常楽寺様を会場として東日本大震災物故者十三回忌萬燈供養法要を、お一人お一人の御霊の安寧と被災地の復興を切に願いながら修行させていただきました。そして翌日の11日には、沿岸地区の各ご寺院様での慰霊法要・慰霊行脚に随喜し、襟を正し誓願を立て哀悼の合掌を捧げてまいりました。

被災地では公共施設が復旧され、新たな建物が建ち、街の様子は日々変化を続けております。しかしその一方で、被災された多くの方々が未だ悲しみと苦しみを背負っておられます。その想いを受け止めて、支え、ともに歩む僧侶でありたいと、岩手県曹洞宗青年会会員一同、自らを戒め道心新たにするものであります。

文／岩手県曹洞宗青年会　会長　海野朋孝

岩手県釜石市　常楽寺様

# 東日本大震災へのこれまでの取り組み

## 【寺院復旧・一般ボランティア・除染作業】

全曹青は東日本大震災発災即日に災害復興支援部を設立し、災害メーリングリストを立ち上げ、被害情報の収集と共有にあたりました。当時の被災地では、住民が別の地に移住するなど、圧倒的に人手が足りていませんでした。この状況に対応するため、寺院境内や墓地の土砂撤去にはじまり、仮設住宅の設置場所を確保するための作業等、積極的にボランティア活動に取り組みました。

また会員有志を募り、公的な除染地区からは外れているが放射線量が多い地域に向かい、公民館等の除染活動を行いました。レインコートを着て、屋根の洗浄や放射線量の多い土壌の撤去等を行いました。現地には放射線という見えないものに対する不安を抱える方が多くおられました。そうした状況に少しでも安心を与えたいとの想いで、多くの会員が活動しました。

## 【傾聴（行茶）活動】

被災地で我々僧侶にもできること、そして僧侶にしかできないことのひとつとして、行茶活動があります。日常が崩れた被災地において、暖かいお茶を届け、被災者の声にひたすらに耳を傾け寄り添いながら、お茶を通じたその時間、日常を取り戻していただきます。会話することによる心のケアと、その中で聞き取ることの出来た被災者のニーズをボランティアセンターなどに届けることができます。そのことにより行政やボラセンとの関係も深くなっていきます。

東日本大震災では長期間継続して行い、曹洞宗のボランティア活動として広く社会に認知されることとなりました。被災地の中には報道の対象とならず、ボランティアが少なかった地域もありました。継続して広範囲で行う傾聴活動は特に重視され、復興支援室分室、曹青会員や協力ＮＰＯ法人等の多くの団体も取り組まれ、合わせて５００回以上実施されました。

## 【炊き出しとストックヤード】

震災発生直後から、避難所や仮設住宅等での炊き出し支援を行いました。東日本大震災では、公的避難所だけではなく、寺院など民間施設も避難所となりました。発災当初は物資が困窮し、調達に時間を要しました。災害時に、寺院を中心として地域の住民の方への救援活動ができるように、いのちを繋ぐ為に必要な備品を整備しておくことが減災への一歩と考え、ストックヤードの整備を行いました。第20期に最初の5か所を設置し、第22期に各管区10ヶ所を追加、現在では計15か所の寺院に配備されています。

災害時に地域の被災者となる方々に対して、備蓄品のほか、寺院施設等、また寺院ネットワークを社会資源として活用し、いのちを繋ぐ迅速な救援活動への一助となることを目的としています。100人分、または50人分の72時間分の水・アルファー米・缶詰・非常用トイレなどが備蓄されています。また平時には、備蓄品などの点検を兼ねた催しなどに活用することにより、地域の防災力への啓発や減災への一助となることを目指しています。

## 【こども自然ふれあい広場】

平成23年8月、曹洞宗福島県青年会と全国青少年教化協議会に協力いただき、被災地の子どもたちを対象とした短期保養プログラムを開始しました。被災体験を持つ子どもたちの長期的な心身ケアが求められている中、特に原発事故による影響が大きい福島の子どもたちを中心に推進した活動です。子どもたちの心身ケアのみならず、その保護者のストレス軽減にも寄与することを目的とし、毎年夏季に開催しました。

第2回開催より全国の加盟曹青会や関係諸団体にもご協力頂き、毎年様々な場所で開催されました。平成27年からは曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援分室が主管、チャイルドラインふくしま共催となり、各協力県の子どもたちとの交流や各地の産業体験など、9年間で約24ヶ所、約900人の子ども達が参加しました。

文／広報委員　泉田尚志

# 久間泰弘老師インタビュー

曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室　主事
全曹青第18期会長

**東日本大震災十三回忌に際して、久間泰弘老師にお話を伺いました。この令和5年3月を以て復興支援室分室が閉室となることを受け、長年に亘る活動を振り返ると共に、青年僧侶のこれからの活動へメッセージを頂きました。**

## ●発災からこれまで

これまでの現地での活動を平均すると週1、2回の頻度になります。発災当初はほぼ毎日通いました。もちろん身体的疲労やストレスはあったと思いますが、大変だとは感じませんでした。私は被災した福島の人間であると同時に、支援者でもありました。どちら側の人間なのか、常に自分の立ち位置を考えながら活動してきました。

思い返して辛く感じたことは、自分を含めた被災当事者としての復興への思いと、他地方の方の意識の温度差を感じたことです。私は全国各地に赴き、講演会で様々な心情や状況を代弁してきました。話を真剣に受け止めていただく方がほとんどでしたが、細かいニュアンスを伝えきらず、被災地の方に申し訳ないと感じたこともありました。

心の代弁者となることは、風化を防ぐ大切な活動です。しかし同時に、自分は当人ではないというわきまえを忘れないよう務めてきたことを、今もよく覚えています。

逆に嬉しかったことは、沢山の方々に言葉や物資など様々な形で、想いを届けていただいたこと。また、届けたいという気持ちを伝えてくれたことです。現地で一緒に活動していただくのはもちろんですが、メールや葉書をお送りいただいたことや、行茶のために届いたお菓子にメッセージが添えてあることもありました。とても嬉しかったのを覚えています。それが、私たちを動かす唯一無二のエネルギーとなりました。

## ●東日本大震災から、宗教者による傾聴活動が活発になりました

帰還困難区域の浪江町から、仮設住宅に避難している女性がいました。その方とは傾聴活動で顔見知りになっていたのですが、発災から10年目のある日「やはり帰りたい」と突然伝えられました。今まで言えずにいたそうですが、我慢できなくなり話してくださったとのことでした。それを聴いて私は、10年間の傾聴で何をしていたのかと申し訳なくなりました。その気持ちは傾聴の技術が引き出したのではなく、これまでの関係があるからこそ伝えてくださったのです。人に自分の気持ちを伝えることは簡単ではないと、改めてその心に寄り添う大切さを感じました。

また、石巻で会った方は「自分のことだけを考えると辛すぎて頭がおかしくなる。周りの支援してくれる方に感謝していないと、生きていけない」とお話してくれました。自分の命と向き合い続けた方が絞り出した、心からの言葉でした。窮状にあると自分のことだけを考えてしまうものと想像しがちですが、実際にはそうではないのです。自分のことを考えられないほど追い込まれることがあって、そんなときに生まれる思いを教えていただきました。

私は人の本当の苦しみとは、今の自分の

南相馬市　小池長浜仮設

状況や気持ちを語れないことから始まると感じています。たとえ苦しいことがあったとしても、それを自分のこととして語る場所や機会がないことで、更に追い詰められてしまうのです。だから身体的活動だけでなく、宗教者として苦しみを引き受けていく。そんな傾聴活動が必要とされてきましたし、これからも同様だと思います。

## ●青年僧侶の今後の活動について

今の私たちの活動があるのは、先輩方が大衆教化の接点を求めて模索を続けてきた想いがあるからです。その大きな流れの中に私たちがいて、教えていただいたものが現在の活動に繋がっているのです。私にとってそんな先輩方や当時一緒に活動していた仲間、そして今これから何かをしていこうと考えている皆さんの存在が誇りです。

伊達郡国見町　上野台仮設　足湯提供

私にとって青年会は、各々が自己省察して何ができるかを探し、それを語り合い磨き合っていく道場であると考えています。宗教者にとって12年というのは区切りのひとつですが、被災者には何の節目でもありません。今の自分を大切に振り返りながら、自分には何ができるかを考え、『大衆教化の接点』にたち返りながら活動していただきたいです。

災害復興支援については特に、私に務まるのか、何ができるのかという問いや迷いが生まれます。それはこれまでも存在したし、これからも青年僧侶それぞれが抱き続けるだろうと思います。しかし多くの場合、私はそこに年齢や経験は殆ど関係ないと感じています。求めるのは現地の方で、私たちは求められる側だからです。そして、その求めに真っ直ぐに応じていけば、いつかはその相対的関係も無くなり、同じいのちを生きる存在になると思います。向き不向きなど自分で自分に見切りを付けず、自らに問い続けることで生まれる気持ちを大切に、今後も活動を行っていただきたいです。

取材／広報副委員長　宮本貴心

## ●復興支援室分室書記　佐藤正乗師

今年の3月11日が過ぎ去った後、分室は静かに閉室を迎えました。震災と原発事故から12年、設置から10年。長く、そしてあっという間だったという、相反する思いが同居しています。

聴き続けた年月でした。キャッチーに語られがちな「寄り添い」や「ボランティア」の実践に難しさを感じながら、現場に立つ。机上では解らない肌感覚の気づきや学び、得難い出会いの連続でした。「誰かに話を聴いてほしいという思いはずっとなくならない」とは、ある方に教えていただいた大切な言葉です。その根源的な欲求の受け皿になるべく、微力ながら今後もできる範囲で在野に立ち、聴き続けたい想いです。

これまでお心をお寄せくださいました全ての皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

## ●復興支援室分室書記　齋藤光輝氏

令和5年3月31日を持ちまして約10年間の支援活動に節目を迎えることとなりました。

これまでの活動を振り返ると、様々な方々と接することと被災者の状況に応じて変化していくニーズへの気づき、双方の難しさを感じてきました。そして、そこに正解を見つけようとしながら、日々活動していたように思えます。今改めて振り返ると、そこに正解は無くてもいいのかもしれません。また、正解は無いのかもしれません。支援する側とされる側がいつもフラットな関係性を保ち、組織として自分自身としてできることを継続していく。それが支援活動として大切なことなのではないでしょうか。

今後はこの支援活動でご縁を頂いた方々と、細く長く、自分自身ができることを続けていきたいと思っています。

# ソウセイネットワーク

## 九州曹洞宗青年会

**全国の加盟曹青会の活動情報を共有し、青年会活動のさらなる活性化を目指してきた本連載。第24期最終号となる今号は規模を拡大し、九州曹洞宗青年会の清永貴司会長にお話を伺い、九州管区全体の青年会活動をご紹介します。**

九州曹洞宗青年会　会長　清永貴司

### ■九州曹洞宗青年会とは

九州各県には他地方と同じように各県の青年会があり、それぞれが独自の活動を展開しています。しかし九州各県を見渡すと、曹洞宗寺院が少ない県や多い県、寺院数は多くても兼業の割合がとても多い県等、様々な事情があります。それらを考慮した時に、県独自の活動だけでなく、管区という大きな範囲での結束や協力体制が必要な場面が多く出てきます。そこで九州曹洞宗青年会(以下、九曹青)が連絡協議体となり、管区全体という大きな集合体の意識を強く持っていることが、九州の青年会の特徴かと思います。

### ■管区全体での協力体制、結束とは

九曹青では、長年に亘り『九州はひとつ』という活動テーマを掲げています。会員の交流を深めていくことを第一の目標として春の総会と秋の球技大会を主催し、九州管区内の青年僧侶の交流を促進しています。

九州ではこの数年間、毎年大きな災害が続いています。地震や豪雨災害、甚大な被害の報告が後を絶ちません。そんな有事の際には九曹青がハブとなって、災害時の情報集約や各県曹青へのボランティア依頼を進めます。この協力体制がスムーズに機能していることに、交流という下地が活きていることを実感します。

私自身も過去には、自坊近くで大きな水害を経験しました。しかしその時は、目の前の災害への対応に必死で、支援をお願いすることには中々気が回りませんでした。誰しもこうした状況になるため、九州全体という大きな枠組みでの動きが大切になってきます。被災している県を他の九州各県が支えるという体制は、被災経験者としてとても心強いものがあります。

### ■九州全体という強い連帯感を感じます

遠くの県のどこかの誰かではなく、よく知ってる「あの人」が困ってる。だからすぐ助けに行こう。個人レベルでの交流が、九州という大きな結束へと繋がっていると思います。だからこそ、近年続く災害にも対応することができました。

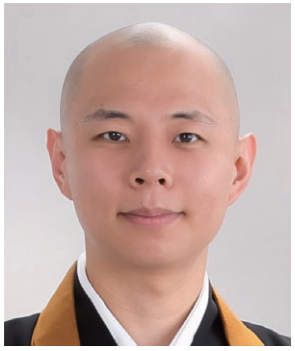
コロナ禍によってこの数年は、この基盤である交流の機会を持ち難い日々が続いておりました。しかし昨年から対面制限が緩和されつつあることから、少しずつ交流の機会も戻ってきています。これからも九州というひとつの集合体として、力を合わせて活動していきたいと思います。

聞き手／副会長(福岡県曹洞宗青年会所属)
田ノ口太悟

取材／広報委員長　菅　悠生

九州曹洞宗青年会球技大会

## ●福岡県曹洞宗青年会



会長　山﨑有司

ここ数年は新型コロナウイルスの影響で、青年会の活動もリモートを活用しての研修会など制限せざるをえない状況が続いておりました。しかし昨年秋頃から感染者数減少の傾向がみられたため、3年ぶりに九曹青球技大会、寺院子弟研修会、托鉢、法式研修等のコロナ禍以前に行っていた通例行事を戻すことができました。

特に6月に開催された新型コロナウイルス対策研修会において、北九州生活科学センターの藤崎清仁氏と田中衛氏を招いて、新型コロナウイルス感染対策についてご教授いただきました。誰もが感染する可能性のある新型コロナウイルスについて、マスク着用の大切さを再認識させられました。

また、本年の福曹青といたしましては、発足40周年をひかえております。先輩諸老師が築き上げてこられた40年の歴史のバトンを次に繋ぐ、大切な1年にしていきたいと思います。

文／福岡県曹洞宗青年会　会長　山﨑有司

**福岡県曹洞宗青年会より出向**

副会長　田ノ口太悟

広報委員　信行一宏

## ●大分県曹洞宗青年会

会長　井福宗典

大分県曹洞宗青年会は会員19人、『和合と寛容』を標語（モットー）に青年会活動に取り組んでいます。昨今のコロナ禍でこの4年間は思うような活動ができていませんでした。年2回の大分県寺院季刊誌『妙竹林』の発行、各種研修会、ボランティア活動等できるだけ感染の恐れの少ない取り組みは行ってまいりました。今年こそは新型コロナウイルスの制限も無くなり、活気ある青年会活動を行えるよう願っています。同時代に曹洞宗の青年僧侶として集まる会はとても尊い会であり、未来を創る同志であると考え、日々精進し取り組んでまいりたいと思います。

文／大分県曹洞宗青年会
会長　井福宗典

## ●宮崎県曹洞宗青年会

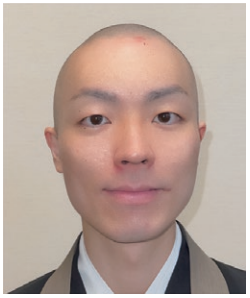
会長　久峩康陽

宮崎県曹洞宗青年会の近年の活動では、台風14号によって甚大な被害を受けた延岡市小川町の妙光寺の復旧作業を行いました。被災直後で道路状況も不明な時期でしたが、泥に浸かった須弥壇の清掃や滅茶苦茶に押し流された位牌堂の片付けなど、多数の会員が駆けつけてくれました。

最近まで新型コロナウイルスが感染拡大と収束を繰り返す状況の中で、なかなか青年会として活動らしい活動はできませんでした。今後は、ますます変化のスピードを増す社会情勢の中で、青年僧侶として何ができるのかを自らに問いながら、アフターコロナはこれまで以上に精力的に活動していきたいと思っています。

文／宮崎県曹洞宗青年会　会長　久峩康陽

**宮崎県曹洞宗青年会より出向**



総合企画委員
佐藤大起

## ●熊本県曹洞宗青年会

会長　巖　道治

熊本県には、火山と先祖代々受け継がれてきた草原が広がる阿蘇の山々、豊かな森と河川がある人吉球磨、暖かな海と島々の天草と多彩な自然環境があります。

熊本県曹洞宗青年会では、例年「夏休み子供禅の集い」として、主に県内小学生を対象に1泊2日の合宿を行っております。県内ご寺院様もしくは、キャンプ場をお借りしての坐禅、法話、食事指導と宗門の教えを学んでもらいます。また多彩な自然環境を生かしたレクリエーションを企画して、青年僧侶と楽しく接する機会を作っています。残念ながらこの2年間はコロナ禍で中止を余儀なくされていましたが、今後も続けていけるように努めてまいります。

文／熊本県曹洞宗青年会　会長　巖道治

### 熊本県曹洞宗青年会より出向

災害復興支援部事務局長
仲野大悟

## ●鹿児島県曹洞宗青年会

会長　飯尾章寛

鹿児島県曹洞宗青年会の会員数は年々減少し、今年度は3人となりました。

以前は、県内の小中学生を対象とした「禅のつどい」や、青年会会員による「法式研修」の継続開催をメインに活動していましたが、会員数の減少と新型コロナウイルスの影響により、中止を余儀なくされました。

しかし昨年度は、会員・県内寺院を対象に「布教講習会」を開催するなど、新たな活動を見いだすことができました。今後は、宗務所との連携など青年会の枠にとらわれず、幅広く活動していきます。

文／鹿児島県曹洞宗青年会　会長　飯尾章寛

## ●佐賀県曹洞宗青年会

会長　髙岸正順

佐賀県曹洞宗青年会では、例年祖師方の書物を学ぶ機会として、「祖録を繙く会」を開催しております。近年では令和元年度より4年に亘って、安泰寺九世ネルケ無方老師を拝請し、「学道用心集」をご提唱いただきました。

コロナ禍によって対面ではなくリモート開催となってしまった時もありましたが、無事学び終えることができました。提唱を通して初心を思い出し、会員それぞれが自身の僧侶としての在り方を考え直す良い機会となりました。

文／佐賀県曹洞宗青年会　会長　髙岸正順

## ●長崎県曹洞宗青年会

会長　武藤信義

長崎県曹洞宗青年会は会員35人、県内全体での活動のほかに、県央・県南・県北・対馬・五島の各支部においても活動をしております。

平成28年の熊本地震発生においてボランティアに参加させていただいた教訓を基に、災害時に迅速な対応と初動を取れるよう、平成29年よりボランティア委員会を設立しました。水や保存食、炊き出しステーションなどを当会で常備し、昨今多発している自然災害に備えております。九州管区内で災害警報が発令された時には、県内各支部でも地震・気象情報などを共有しております。

今後は、炊き出し訓練や災害ボランティアに対する知識を深めると同時に、コロナ禍によって滞ってしまった青年会活動の再開や、目まぐるしく変化する時代に応じた多角的な企画や運営を取り入れて、青年僧侶の研鑽の場にしていきたいと考えております。

文／長崎県曹洞宗青年会　会長　武藤信義

### 長崎県曹洞宗青年会より出向

教化委員　天雨顕成

レポート全曹青

## 第2回「情報発信支援講座」SNSによる双方向のコミュニケーション

令和5年1月25日、「SNSによる双方向のコミュニケーション」と題して、全曹青主催による第2回「寺院のための情報発信支援講座」が、オンライン開催されました。ホームページコンサルタント永友事務所より代表の永友一朗氏を講師に迎え、これからの情報発信の在り方や手法をご講義いただきました。

情報発信ツールは日進月歩の進化を続けており、現在は「Facebook」や「LINE」といったSNSが情報発信の主戦場となっています。SNSでは情報を発信するのみでなく、寄せられる声に応える等、双方向のコミュニケーションを気軽に実践できます。この強みによって、気軽に檀信徒や参拝者と交流することができるようになり、開かれた寺院運営の秘訣となることを学びました。

続いて、双方向コミュニケーションの事例紹介として、青森県のおおま宿坊普賢院の菊池雄大師にご登壇いただきました。SNS活用開始から現在に至るまでの過程と今後の展望を発表していただき、参加者にとってとても良い刺激となりました。

最後に行われた質疑応答では、多くの参加者からの質問が飛び交い、本研修会は盛会裏に終了いたしました。

文／広報委員　信行一宏

加盟曹青会活動レポート

## 第46回東海管区曹洞宗青年会大会

令和5年2月3日、第46回東海管区曹洞宗青年会大会を開催いたしました。感染症拡大のリスクを排除すると共に新しい形での大会開催の試みとして、管区内としては初めてのオンライン開催、YouTube ライブ配信という形式をとらせていただきました。

大会テーマを『食からみた仏教』とし、精進料理に造詣が深く様々な活動や著書をお書きの、広島県普門寺副住職・吉村昇洋師を講師としてお迎えして、講演会を開催いたしました。

「精進料理考 インド～中国～日本を辿る」という演題で、吉村師には充実した講演をしていただきました。「食」というものを非常に重視する宗門において、宗門僧侶であれば誰もが経験した「僧食」。知っているようで知らなかったその深い内容に、目から鱗が落ちるようでした。さらには中国やインドにまで時代や地域を遡って話が及び、その豊かな仏教の歴史や文化によって育まれてきた「僧食文化」について、驚きと新鮮さをもって興味深く拝聴いたしました。

今大会ではライブ配信と2週間のアーカイブ配信、合わせて200人を超えるご視聴を頂戴し、改めて食と仏教との関係を考える機会を共有できましたことをありがたく感じております。

文／曹洞宗静岡県第四宗務所青年会（照自会）
大会実行委員長　伊原昌憲

吉村昇洋師

# 災害復興支援部 ニュースレター

## 「阪神・淡路大震災慰霊法要」随喜報告

令和5年1月16日夕方から17日早朝にかけて、阪神・淡路大震災慰霊法要が行われました。神戸青年仏教徒会より全日仏青を通じてご案内いただき、全曹青からも山田会長や村山顧問らが随喜いたしました。

16日夕方には、神戸市中央区の神戸青年仏教徒会の事務所で逮夜法要が行われました。続く翌17日早朝、発災時刻に合わせて神戸市長田区の「カトリックたかとり教会」と「あわせの地蔵」で慰霊法要が行われました。法要には超宗派の僧侶が集い、各宗派の法式を取り入れながら、亡くなられた方々へ手を合わせました。

当事業はコロナ禍の影響によって、昨年まで規模が縮小されておりました。本年は多くの方が参列され、地元の方々によるお汁粉等の炊き出しも行われました。

発災から本年で28年。色褪せない慰霊の心を繋ぐ大切な時間となりました。

取材／広報委員　泉田尚志

神戸市長田区「あわせの地蔵」

## トルコ南東部における地震発生について

2月6日におきたトルコでの大地震では、トルコとシリアで大変多くの死傷者と甚大な被害が発生しました。

全曹青は駐日トルコ共和国大使館に、緊急支援金として10万円を寄付いたしましたことをご報告いたします。ご冥福と、また被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

# 全日仏青 NEWS

JYBA ALL JAPAN YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION

## 村山博雅顧問 世界仏教徒青年連盟会長 再就任

この度、全曹青顧問である村山博雅師が、世界仏教徒青年連盟（以下、WFBY）の会長に再就任いたしました。村山師は、平成30年の初就任より大乗仏教圏初のWFBY会長として、国際交流事業やWFBY50周年記念法要を開催されました。2期目のWFBY会長として、今後2年間の任期をお務めされます。

2月27日には、服部秀世宗務総長が発起人のお一人となり、会長就任祝賀会が開かれました。村山WFBY会長の挨拶では、国際布教・国際交流・国際ボランティアの3つの活動を軸とし、世界の仏教徒との交流を以て仏教文化の宣揚を目指していく決意が述べられました。

また記念講演では、世界仏教徒連盟（WFB）執行役員である戸松義晴師をはじめ、国際布教に尽力されている諸師をお迎えし、村山WFBY会長を交えてのグループトークが行われました。国際仏教徒青年交換プログラム（IBYE）に参加しての所感など、日本仏教において実際に経験することで感じる国際交流の意義と可能性について、お話を頂戴しました。

文／国際委員　神野太賢

WFBY 会長委任状　授与

記念講演の様子

# 広報委員からのごあいさつ

委員長
**菅　悠生**
広島県曹洞宗青年会

スローガン『Paradigm　Shift』の基で、社会変化への対応を模索しながら全力で駆け抜けた第24期でした。沢山の方のお力添えによって、2年間の任期を務めることができたと感じています。ありがとうございました。

コロナ禍以前の活動も徐々に戻りつつある今、今期培ってきた新たな挑戦が土台となり、青年僧侶の活動がさらに飛躍する時が来たのではないかと考えています。今後も１人の青年僧侶として、想いを絶やさず挑戦を続けていきたいと思います。

副委員長
**宮本　貴心**
宮城県曹洞宗青年会

全曹青２期目となる今期は、広報委員として参加させていただきました。初めての取材や執筆に加え、コロナ禍で活動が制限され悩ましい思いもありましたが、今期最終号を迎えることができました。この広報誌が、全国で活動する青年僧侶を繋ぐ一助を担えたならば幸いです。

委　員
**伊村　千尋**
曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

令和３年度、令和４年度と務めさせていただきましたが、コロナ禍ということもあり思うように活動することの難しい期間でした。だからこそ、今できることを模索し活動いたしました。この経験を出向させていただいている地元青年会に持ち帰り、活かしていきたいと思います。

委　員
**泉田　尚志**
大阪曹洞宗青年会

今期初めて、全曹青に出向させていただきました。全曹青について知らないことが多く、ご迷惑をおかけすることも多かったと思います。全国組織として皆様と活動を共にできたことに感謝しております。

委　員
**信行　一宏**
福岡県曹洞宗青年会

今期初めて、全曹青に出向させていただきました。慣れないことも多く、大変なこともありました。しかし全曹青の活動を通して、各地の活動の広報やチームで１つのものを作り上げていくという、貴重な経験をさせていただきました。このご縁に感謝いたします。

委　員
**菅原　貴俊**
山形県第三宗務所青年会

第24期より全曹青に出向させていただきました。コロナ禍での活動は制限もありましたが、広報委員会の活動を通じて多くの方々と出会えたこと、第２００号という節目の広報誌作成に携われたこと、全曹青でいただいたすべてのご縁に感謝申し上げます。

委　員
**萩野　昌吾**
京都曹洞宗青年会

コロナ禍からアフターコロナへ。ちょうどそのパラダイムシフトの真っ只中にこの任を頂きました。浅学菲才、身に余る任でしたが、社会が変わりゆくなかで変わらなくてよいものはなにか。活動を通じて少しは気づくことができたかなと思います。２年間ありがとうございました。

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

**◆岩手県**
8　源勝寺　様
17　清水寺　様
186　大光寺　様
210　常樂寺　様

**◆青森県**
74　浮木寺　様
79　法光寺　様
98　東光寺　様
100　澄月寺　様
101　聖福寺　様
183　大乗寺　様

**◆山形県1**
90　無量寺　様
238　西来院　様

**◆山形県2**
285　泉髙院　様
341　全龍院　様
346　長福寺　様

**◆山形県3**
614　常林寺　様
641　宝泉寺　様
734　東光寺　様

**◆秋田県**
8　天龍寺　様
18　乗福寺　様
19　闡信寺　様
49　乗江院　様
61　鷲林寺　様
70　玉龍寺　様
76　藏堅寺　様
179　長泉寺　様
184　護昌寺　様
243　寶藏寺　様
258　鳳来院　様
265　倫勝寺　様
279　宝昌寺　様
302　天昌寺　様

**◆北海道1**
78　正林寺　様
曹洞宗北海道第一宗務所第七教区青年会　北斗会　様

**◆北海道2**
239　禅昌寺　様
248　總泉寺　様
北海道第二宗務所第三教区　掬水会　様

**◆北海道3**
199　禅雲寺　様
460　道貫寺　様
禅真会　様

龍象会　様

## インターネット受付分

**◆群馬県**
67　長泉寺　様

**◆千葉県**
12　高根寺　様

**◆静岡県4**
河合智矢　様

**◆愛知県2**
897　西湖院　様

**◆新潟県1**
394　常安寺　様

# 賛助費・ボランティア基金浄納芳名簿

2023年1月1日～2023年3月31日取扱い分

◆東京都
274　雲龍寺　様
311　妙光院　様

◆埼玉県2
251　高正寺　様

◆群馬県
160　大圓寺　様
194　善宗寺　様
311　泉通寺　様

◆栃木県
51　豊栖院　様
57　満福寺　様
93　乾徳寺　様
120　璉光院　様
167　興福寺　様

◆茨城県
2　天徳寺　様
150　寳安寺　様
182　龍心寺　様
197　長龍寺　様

◆千葉県
7　満蔵寺　様
22　廣壽寺　様
29　慶林寺　様
60　東伝院　様
185　勢國寺　様

◆山梨県
162　法久寺　様

◆静岡県1
26　宝珠院　様
34　洞慶院　様
177　興隆寺　様

◆静岡県2
332　龍雲寺　様
368　曹洞院　様

◆静岡県3
767　大雲院　様
927　正眼院　様
932　金藏寺　様

◆静岡県4
1065　高林寺　様
1105　仙林寺　様

◆愛知県1
5　功徳院　様
55　長全寺　様
101　成福寺　様
108　香積院　様
133　瑞泉寺　様
313　長松寺　様
605　天徳寺　様
635　永澤寺　様
653　正壽寺　様
677　祐源寺　様
1140　竹林寺　様

◆愛知県2
815　西光寺　様
962　智藏院　様

◆愛知県3
411　福田寺　様
422　安樂寺　様
431　報恩寺　様

◆三重県1
7　海藏寺　様
37　四天王寺様
83　凉泉寺　様
132　地蔵寺　様
144　福源寺　様
273　禅龍寺　様
291　林昌寺　様
364　観音寺　様

◆三重県2
371　光明寺　様
468　東昌寺　様

◆滋賀県
143　永壽院　様

◆京都府
11　洞泉寺　様
236　善光寺　様
367　福昌寺　様
374　等楽寺　様
389　萬福寺　様

◆大阪府
26　天徳寺　様
31　正泉寺　様
69　永興寺　様

◆奈良県
68　景徳寺　様

◆和歌山県
52　宗應寺　様

◆兵庫県2
149　瑞光寺　様

◆広島県
6　禅昌寺　様
22　光禅寺　様
46　双照院　様
86　西金寺　様
93　賢忠寺　様
133　少林寺　様
146　福善寺　様

◆山口県
25　弘済寺　様
190　亨徳寺　様
236　飯倉寺　様
山口県曹洞宗青年会 様

◆鳥取県
82　吉祥院　様
119　清元院　様
124　願成寺　様
126　圓福寺　様
127　住雲寺　様
140　瑞仙寺　様

◆島根県1
305　海雲寺　様
332　興源寺　様

◆島根県2
36　舜叟寺　様
63　龍覚寺　様
64　安栖院　様
70　完全寺　様
161　太林寺　様
187　養善寺　様
195　總光寺　様

◆徳島県
26　城滿寺　様

◆愛媛県
135　秀禅寺　様
146　興雲寺　様

◆福岡県
5　妙徳寺　様
25　南林寺　様
28　桂木寺　様

◆大分県
8　豊音寺　様
82　多福院　様

◆長崎県1
26　鏡圓寺　様
42　西方寺　様
77　禪海寺　様
78　宝泉寺　様

◆長崎県3
101　南明寺　様

◆佐賀県
10　寳藏寺　様
114　廣嚴寺　様
193　慈恩寺　様

◆熊本県2
78　地藏院　様
90　明榮寺　様
122　國照寺　様

◆宮崎県
54　善栖寺　様

◆鹿児島県
14　紘昭寺　様

◆長野県1
57　長秀院　様
65　柳原寺　様
86　圓福寺　様
243　廣德寺　様
322　守芳院　様

◆長野県2
566　広明寺　様
595　検校庵　様
603　長性院　様

◆福井県
48　洞雲寺　様

◆石川県
75　大覚寺　様

◆富山県
98　足蹤寺　様
206　慈眼寺　様

◆新潟県1
393　曹源寺　様
477　龍泉院　様
496　長樂寺　様

◆新潟県2
716　東光寺　様

◆新潟県4
38　興泉寺　様
69　永明寺　様
112　常安寺　様

◆福島県
79　西松寺　様
90　明光寺　様
93　長光寺　様
101　成林寺　様
110　龍德寺　様
121　長泉寺　様
226　常隆寺　様
267　東禅寺　様
373　泰雲寺　様
461　正法寺　様

◆宮城県
19　大林寺　様
115　円竜寺　様
141　自照院　様
212　祥雲寺　様
366　香林寺　様
371　頼光寺　様
384　大雄寺　様

SOUSEI
発行所／全国曹洞宗青年会　〒105-8544　東京都港区芝2-5-2　曹洞宗宗務庁内　発行責任者／山田俊哉「2年間ありがとうございました」　編集責任者／菅悠生　編集委員／宮本貴心・伊村千尋・信行一宏・菅原貴俊・泉田尚志・荻野昌吾
本誌編集部並びに発行部数に関するお問い合わせ先／〒722-0062　広島県尾道市向東町12944　西金寺内 TEL 0848-44-0594 FAX 0848-44-0648　制作・デザイン／リブウトアートワーク　印刷所／創文社印刷株式会社　定価100円
平成11年6月8日第三種郵便物認可（年4回2・5・8・11月の10日発行）第201号 令和5年5月10日発行

## 表紙の話

第 24 期最終号となる今号では、東日本大震災十三回忌を特集いたしました。4 年ぶりに現地開催となった東日本大震災慰霊行事の様子を最後にお届けすることを意識し、表紙はどこかに向かって駆け出す青年僧侶の姿としました。たとえどこにいたって、どんな時だって、私たち青年僧侶はいつだって全力で駆けつける。再び変化しつつある社会でこれからも続く青年僧侶の想いと行動を、未来への意志として表現しました。

撮影地／東京都港区　撮影／広報委員長　菅悠生